

すいせん



発行者 須崎協議会 文化厚生部
下田市須崎一七九番地
須崎漁民会館内
電話 0558(22)8056

題字: 梅田弥祐先生

須崎公衆トイレ完成

本年5月より建設着手をしておりました「須崎公衆トイレ」が完成しました。24日から使用開始をしました。

このトイレは全て洋式です。右側が男性用、左側に女性用の入口があり、中央は車椅子の方が利用できる様にバリアフリー対応になっています。



いつもありがとう

須崎バス停留所ターミナルの周辺や築城石園内を、元区長の宇野勝美さんが何時もとてもきれいに清掃してくれています。感謝いたします。



幼き頃の思い出

文化・厚生担当 森 豊春 (平治)

先日、古文書の研究をされている考古学の先生方の作業現場に立ち会う機会があった。漁民会館において、須崎に江戸時代より伝わっている「古文書」を資料として残せるようにしているものであった。その折に、代々残されてきた「古文書」を初めて見た。下田市教育委員会と名があるA4版茶封筒の中に丁寧に整理・保管されていた。その中の一つ、一つの中身を少しだけ見てみたが、かなりの年代物であることが一目で分かる程古い物であった。作業をされている大学の先生方に聞いてみると、「歴史的な価値が高く、とても貴重な物であること」「代々、これだけきちんと文書として残されている物は、とても珍しく貴重であること」等々の答えであった。改めて、大切に守りつないで行かなければならないことを、気付かされた次第である。

この作業を見ながら壁に目をやると、須崎の海岸沿いの昔の風景や夏祭りの様子を写した写真が目についた。これを見て、幼い頃の、自分の中の夏の『風物詩』が頭の中に浮かんできた。「しおあび(海水浴)」「夏祭り」「盆踊り」「お金拾い」である。昭和30年代後半、周りが少しずつ豊かになり始めた頃である。半世紀以上も前

須崎で見られる野鳥

丑嶋 久雄

「飛べ飛べトンビ空高く・・・」童謡の一節ですが、須崎にはこのトンビが多く見られます。電線にとまったり、水たまりで水を飲んでのをよく見かけますが、近づくたびにびっくりするほど大きく、羽を広げると160cm程になります。視力が非常に良いので、ピーヒョロロと鳴きながら上空から獲物を見つけて急降下、鼠、蛙、蛇などの小動物を捕獲します。ユーラシア・アフリカ・オーストラリアにかけて広く分布しますが、日本では、九州以北に留鳥として棲息しています。山地林、市街地、農耕地、海岸など、様々な場所に棲み、樹上で生活しています。他の勇猛なタカ類に比べ、残飯や死骸をあさることが多い事から

のじやなので、記憶はおぼろげであるが・・・

越瀬の浜、西条西はし前の防波堤、三ツ島などでよく泳いだものである。当時、港の中には大型の漁船や小型の運搬船が、つなぎ止めてあった。その船に上り、高い所から飛び込んだものである。小学校一、二年生の頃は泳ぎが未熟だったので、五、六年の上級生が周囲を囲んでくれ、西はし前の防波堤から赤島まで泳いだことも記憶している。小学校低学年にはとても長い距離に感じたが、上級生に励まされ、どうにか泳ぎきった。先輩方には、よくいじられたりもしたが、結構遊んで貰い、面倒もよく見て貰ったと思う。学年が上がると、磯崎や小白浜、松下へも出掛けて行ってよく泳いだ。当時、大間は「潮の流れが速く、すぐ流されるので泳いではいけない」とよく言われていた。小白浜・松下から越瀬・三ツ島港の中が自分の海水浴場であった。防災の関係で、港が埋め立てられ、港の中で泳ぐ人はなく、大間が海水浴場になっていて現在、半世紀以上前がとても懐かしく思えてくる。

「タラタラ」と思いつくままを書いてしまい紙面がなくなってきたので、「夏祭り」「盆踊り」「お金拾い」は、又、機会を頂いたときに書かせて貰いたい。

タカ類の中では一段低くみられる印象があり、それが、「鷹が生む」という「平凡な親から優れた子が生まれる」の由来になっています。

「夕焼け空がマツカツカトンビがくるりと輪を描いた・・・」この歌も懐かしいですね。



ご意見募集

市、区などへの要望、ご意見、ご提言、ご質問

身近な話題

「わが家の自慢」何でも結構ですお寄せ下さい。

須崎協議会事務所

8月の捕獲情報

- 2日(月)は鷹 1頭70キオス 御場の奥屋のミカン畑にて
- 3日(火)は鷹 1頭80キオス 爪木田7浦道の途中の竹藪にて
- 4日(水)は鷹 1頭40キオス 蜂山の上の与仁の畑の寄せにて
- 17日(火)は鷹 1頭15キオス 御用邸側こん太の奥側にて
- 22日(日)は鷹 1頭70キオス 爪木田7浦道の途中の竹藪にて
- 24日(火)は鷹 1頭6キオス 川上の藪六の畑にて
- 25日(水)は鷹 1頭5キオス 法田寺横の谷佳男氏の畑にて
- 26日(木)は鷹 1頭30キオス 須崎御用邸にて

8月の実施行事

- 4日(水)古着回収/6日(金)回覧日、カイト健康施術会(憩の家)
- 7日(土)新盆供養(水向い)
- 8日(日)【山の日】五輪閉会式
- 9日(月)【振替休日】
- 11日(水)リサイクル分別収集
- 12日(木)区協議会定例会
- 14日(土)お盆迎え/16日(月)お盆送り
- 18日(金)古着回収
- 20日(日)カイト健康施術会(憩の家)
- 22日(火)九十浜海水浴場の終了
- 24日(水)パラリンピック開会式
- 25日(木)リサイクル分別収集
- 26日(金)浜崎小始業式
- 31日(火)市特定健診中止(12月に延期)

9月の予定行事

- 1日(水)古着回収
- 3日(金)回覧日、
- 4日(土)カイト健康施術会(憩の家)
- 5日(日)資源回収/クリーン作戦中止
- 8日(水)リサイクル分別収集
- 9日(木)区協議会定例会
- 10日(金)がん検診中止(12月に延期)
- 15日(水)古着回収
- 17日(金)回覧日、
- 18日(土)カイト健康施術会(憩の家)
- 20日(月)【敬老の日】市敬老会 中止
- 23日(木)【秋分の日】
- 24日(金)ジオガシ・ツアー(会館使用)
- リサイクル分別収集

10月の予定行事

- 1日(金)回覧日、
- 2日(土)カイト健康施術会(憩の家)
- 5日(火)わらいの輪
- 6日(水)古着回収
- 8日(金)リサイクル分別収集
- 13日(水)下田安全運転管理者講習会①
- 14日(木)下田安全運転管理者講習会②
- 15日(金)区協議会定例会
- 16日(土)漁協水産祭り
- 16日(土)両神社秋の例大祭
- 16日(土)カイト健康施術会(憩の家)
- 20日(水)古着回収
- 22日(金)回覧日
- 24日(日)参議院県選出補欠選挙投票日
- 26日(火)リサイクル分別収集

お悔やみ申し上げます

- 8日 小澤 ふたきさん 100歳(番匠屋)
- 29日 土屋 誠賢さん 80歳(誠屋)

須崎の歴史を訪ねて・・・【久七の漂流】

「鳥島漂着物語(小林郁著)」より抜粋⑤

天明5年(1785年)寛政2年(1790年)

漂流船3隻の事

「一次遭難」

天明5年、土佐国松屋儀七船 乗組5人船頭(船主)儀七、親爺(航海長)、水主(カコ)長平24才、水主長六20才、炊(カシキ)甚平10代である。この日船頭儀七は陸(オカ)で取引があり下船し四国の別の湊に風待ちの為4人に回航させた。天明5年1月29日の晩(四国安芸市沖)大西風が吹き起り漂流した。2月13日(14日間)に鳥島に漂着した。流された4人の内、長平以外の3人は天明7年までに死亡した。死亡の原因は大鳥の干物だけ食べ洞窟で休んで、歩いて貝や魚取りをしないので歩かなかつた、と長平は悟った。次の漂流者が来るまで1人で3年間暮らしたが、火打石はなく食べるものは全て生で食べた。

「二次遭難」

天明8年(1788年)大阪備前屋亀次郎船、8百石積回船乗組11人、船頭儀三郎34才肥前国(佐賀県)、船頭忠八37才陸奥国(宮城県)、楫取久七42才(伊豆国須崎)、水主市之丞42才能登国(石川県)、水主長兵衛25才加賀国(石川県)、水主吉蔵25才江戸深川、水主清蔵25才出雲国(島根県)、水主松兵衛30才大阪木津川、水主三之助19才陸奥国八戸(青森県)、水主五兵衛47才肥前国(佐賀県)、炊(カシキ)由蔵15才越後国(新潟県)日本各地からの人の集まりである。船頭が2人いるが儀三郎は元からの船頭、忠八は東国に航海が慣れた者なので乗り込ませた。楫取久七は須崎屋号

海の素晴らしさを知り、その美しい海を守る人に

浜崎小学校校長 菊池 正仁

二十六日から浜崎小学校の二期期がスタートしました。しかし、皆様ご存知の通り、新型コロナウイルスは形を変え日本中に広がりを見せました。子供たちとの再会を楽しみにしていましたが、集団行動を伴う学校生活を考えると手放しでは喜べない状況にあります。始業式も、一堂に会することなく校内放送で行いました。その中で子供たちには次のような内容で締めくくりました。

「この夏、オリンピックを見て心動かされた人もたくさんいるかと思えます。人は高く飛び上がる時、体を低く沈みこませます。コロナが広がっている今は、体を低くするときです。窮屈で苦しいかもしれませんが、それが明けた後、必ず体を大きく伸ばす時が来ます。苦しく我慢してきた分、必ず高く飛び上がり大きな喜びをつかめると思っています。その日まで皆で力を合わせて、乗り越えていきましょう。」と伝えました。

今の緊急事態宣言発令化においては、校外での活動を延期または中止としました。九月の初旬に計画していた各学年の海の活動も行うことが難しくなりました。地区の海は宝です。

「宇右」出身であり楫取りは船頭に次ぐ重要な役職である。屋号「宇右」には宇右衛門と云う兄がいた。代々名乗ったので屋号がついた。久七は家の隣が鍛冶屋なので見まねで鍛冶が出来た、と書かれているが「宇右」の近所に鍛冶屋があったのだろうか？

「新事実発見」

筆者は本年お盆に数六家を訪問した。土屋長一氏に鳥島漂着物語の文中に「宇右の久七は幼い頃、近所の鍛冶屋の技術を見て育った」とある、土屋家の歴史を聞いた。土屋家の過去帳に依れば江戸前期より須崎に住み、最初の先祖は西条「宇右」の前で鍛冶屋をしていた。その後下条の現在「浪花屋」に移り、明治以降に現在地に定住している。家には伝わっている、と聞いた。

菩提寺も旭洞院(西寺)であるのも頷ける。久七は鳥島で12年間生きていたが、漂流者全員で死んでも良いので「日の本」に帰ると決め船造りを始めた。何年もかけて漂流板木を集めた。久七は幼少の頃に鍛冶屋の技術を覚えていて「フイゴ」を作り、破船の錨や古釘を集めて鉄を溶かして新しい船釘を作った。久七の此の技術が無ければ鳥島から脱出して帰れず物語も生れなかつた。

「伊豆の久七」と「藪六の鍛冶屋」は須崎の誇りである。久七一行は12月8日神奈川三崎湊を出帆、房総半島を回り九十九里沖を北上しその夜犬吠崎沖合で強い北風と波は高く雪交じりの大時化となった。次の日あまりの強風に帆柱を切り倒し、全員髪を切つて神仏に助命を祈願した。11人は鳥島に漂着する前に小笠原まで流されたが、風の吹

その素晴らしさを体験できないことは残念ですが、この海はなくなるわけではありません。次の機会を楽しみにしながら別の良さを見つけていきたいと思います。私も海のそばで育ちました。雨の日以外は朝起きて砂浜をランニングしてから朝食をとり学校に向かいました。そのおかげもあってかなり走力がついたように思います。夏には海で泳ぎ、貝を獲ったり、テグスだけでも磯釣りをしたりしました。これらは海の素晴らしさのほんの一部です。故郷を誇りに思える心を育てるためにも、子供たちにはそうした体験する機会を作ること必要だと考えます。

そんな中、「二〇五〇年には魚より海のごみのほうが多くなる」ということを耳にしました。海の生き物の体内から大量のプラスチックごみが出ていることは聞いたことはありましたが、ここまで進んでいたので驚きでした。日本のプラスチックごみの排出量の割合は全体の三〇位で先進国の中ではアメリカに次ぐ多さだそうなんです。これを減らすのは、「ごみの持ち帰り」と決められた場所で処分すること、「ごみを出さないこと」なのだそうです。

「自分一人くらいなら」とついついポイ捨てしてしまいたいところになることはありますが、自分の大好きなところ大切なところ、誇りに思うところなら、自ら汚そうという思いにはなら

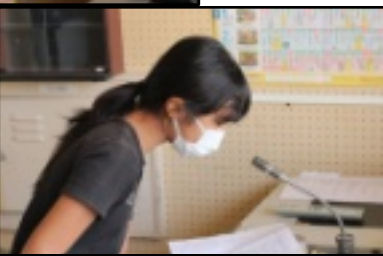
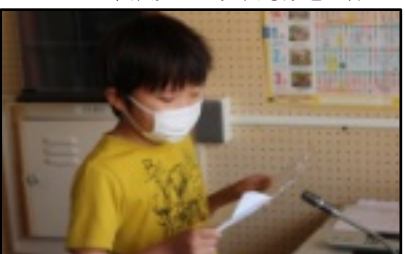
き方が変わり南風となり船は北へと向かった。天明8年1月31日漂流すること53日にも及び鳥島に漂着した。島での生活が始まり2月3日楫取り久七が釣り竿一本と作る材料(茅)が違つた「草履」を見つけたが「如何なる者が住んでいるのか」一同は恐ろしくなり心細かつたが天明5年に流れ着いた長平であった。長平は仲間3人は死に一人で1年5ヶ月を生き抜いてきた。「ここは無人島であり穀物もなく、自分は魚と鳥で露命をつないできた」と語つた。水はアホウドリの卵の殻にためていた。新参の11人にアホウドリを捕まえて捌いて食べさせた。包丁は釘で作つた小刀であった。鳥を料理するのに火打石で火を起したが、長平は3年振りで見えた、その間は生で食べていた。洞窟生活に馴染んだ頃「日本は北西の方角にある、日本を慕うものは北西に住むべき、ここは東南の隅なので方角が悪い。」12人は北西に小屋を建てた。作業中に以前に漂着した者の洞窟を発見した。生きて日本に帰つた者達が残したものであろうと吉瑞に喜んだ。

洞窟の中には船釘が5、6貫(20キ)も残されていた。先輩の長平(27才)はアホウドリの捕え方、漁の方法を教えた。大阪船の11人(2回目漂着)は平均30才であり前向きな生活を始めた。

発見した洞窟は、前回徳川吉宗將軍に謁見した漂流者が住み、残したものであり幕府は鳥島の記録も残しているがこの時のものである。

次号に続く
山三 土屋 磯雄

「八月の学校の様子」
代表児童の発表も放送で行いました。



始業式の様子(各教室で行いました。)



ないはずですが。その一つが「海」であってほしいと願っています。いつまでも美しい海であってほしいと思える子供たちを地区の皆さまと共に育てていけたらと思います。二期期もよろしく願っています。